



## 「正問思考」

「質問づくりの方法」を身につけると学び方が大きく変わる。ダン・ロステイン氏が著した「たった一つを変えるだけ(MAKE JUST ONE CHANGE)」(新評

きるような能力を生徒の一人ひとりが育むよう教師が導くことにある、と言って過言ではない。

来年度からの学習指導要領改訂に伴って「考え、議論する」という授業が始まると、教師と生徒をめぐりの変化は否めない。

## 「自ら問い、自ら学ぶ」

転期に立つ経営の視座 ⑤4

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。「継承と人材創造塾」主宰。『介護ビジョン』編集委員。介護福祉教育マスター。著書に『99の言葉の杖』(日本医療企画)、『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人材創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ! 経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

HP: <http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

論)※の肝心要は、「これまでのように教師が発した質問に生徒たちが答えるのではなく、生徒たちが自らの質問をつくり出せるように導くこと」にある。

教師が生徒に正解(Right Answer)思考を求めるとは、正問(Right Question)思考がで

「考え、議論する」には、正問思考が求められ、教師と生徒は共に「自ら問い、自ら学ぶ」※という姿勢で授業に臨まなければならなくなるからだ。

同書には、「質問づくりの方法」を通して身につくスキルとして、①たぐさんのアイデアを考え出し、

幅広く創造的に考えられる「発散思考」、②答えや結論に向けて情報やアイデアを分析したり、統合したりする「収束思考」、③自分が考えたことや学んだことについて振り返る「メタ認知思考」を繰り返して練習することで多種多様な知識、能力、学力などがある、と高次の三つの思考力の効用を掲げている。

正問思考の鍛錬は急務だ。

## 「自分への質問」

年の瀬を控え、来年度から始まる第七期介護保険事業計画に向けてひとり静かに物思いに耽るのもよいが、正問思考の一助になるのではないかと、いくつかの発問をランダムに記してみた。

「問」目標が達成できないのは何か? それはなぜか?

「問」なぜ、ギャップが起こるのか? それについて、これまで何をしてきたのか?

「問」今やった方がよいのに、していないことはあるか? やらない方がよいのに、やり続けていることはあるか? 今、何をすればよいのか、わかっているか? 「問」目標を達成するために、今どんな行動をとっているか?

「問」今の状況で得ているものは何か? 逆に、失っているものは何か? それでよいのか?

「問」自分で限界を設定しているところはないか? その限界とは何か? いつ限界を決めたのか?

「問」今、何が障害になっているのか? 最大の障害とは何か?

「問」今、何が障害になっているのか? 最大の障害とは何か?

「問」今、何が障害になっているのか? 最大の障害とは何か?

「問」今、何が障害になっているのか? 最大の障害とは何か?